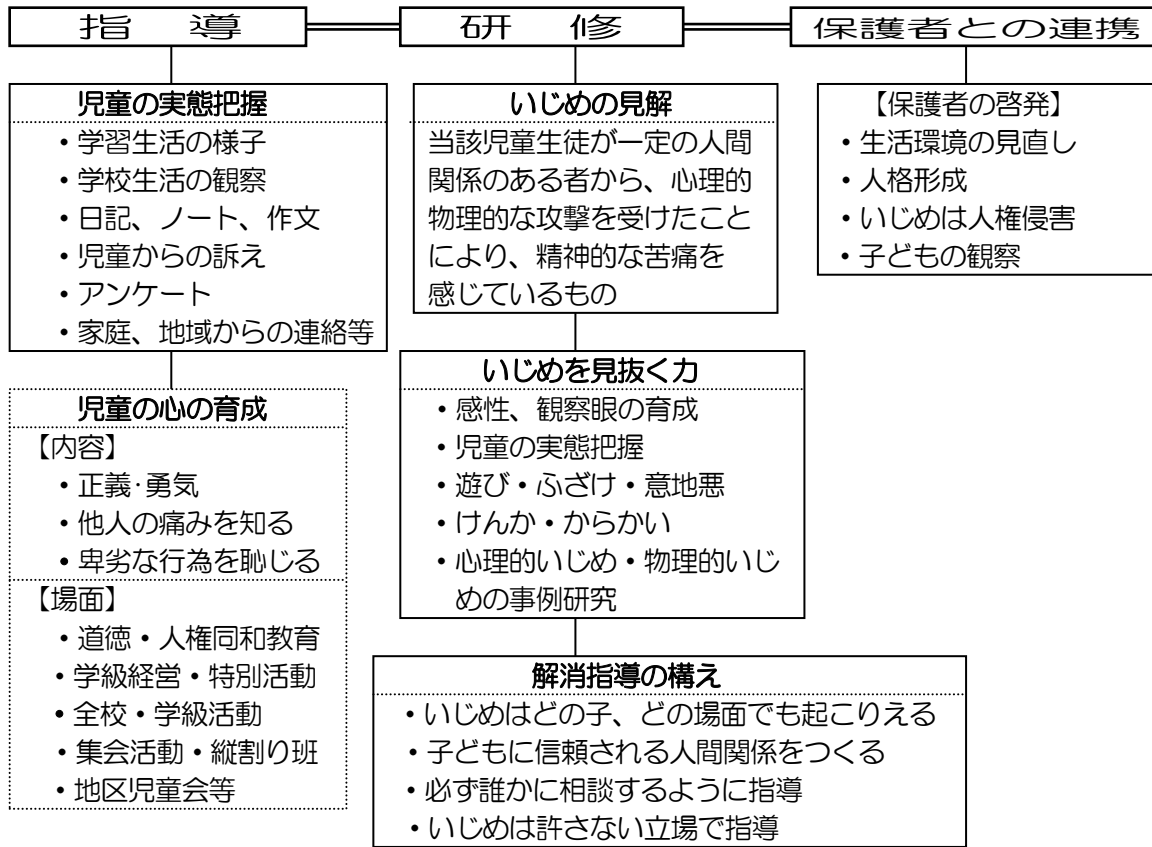
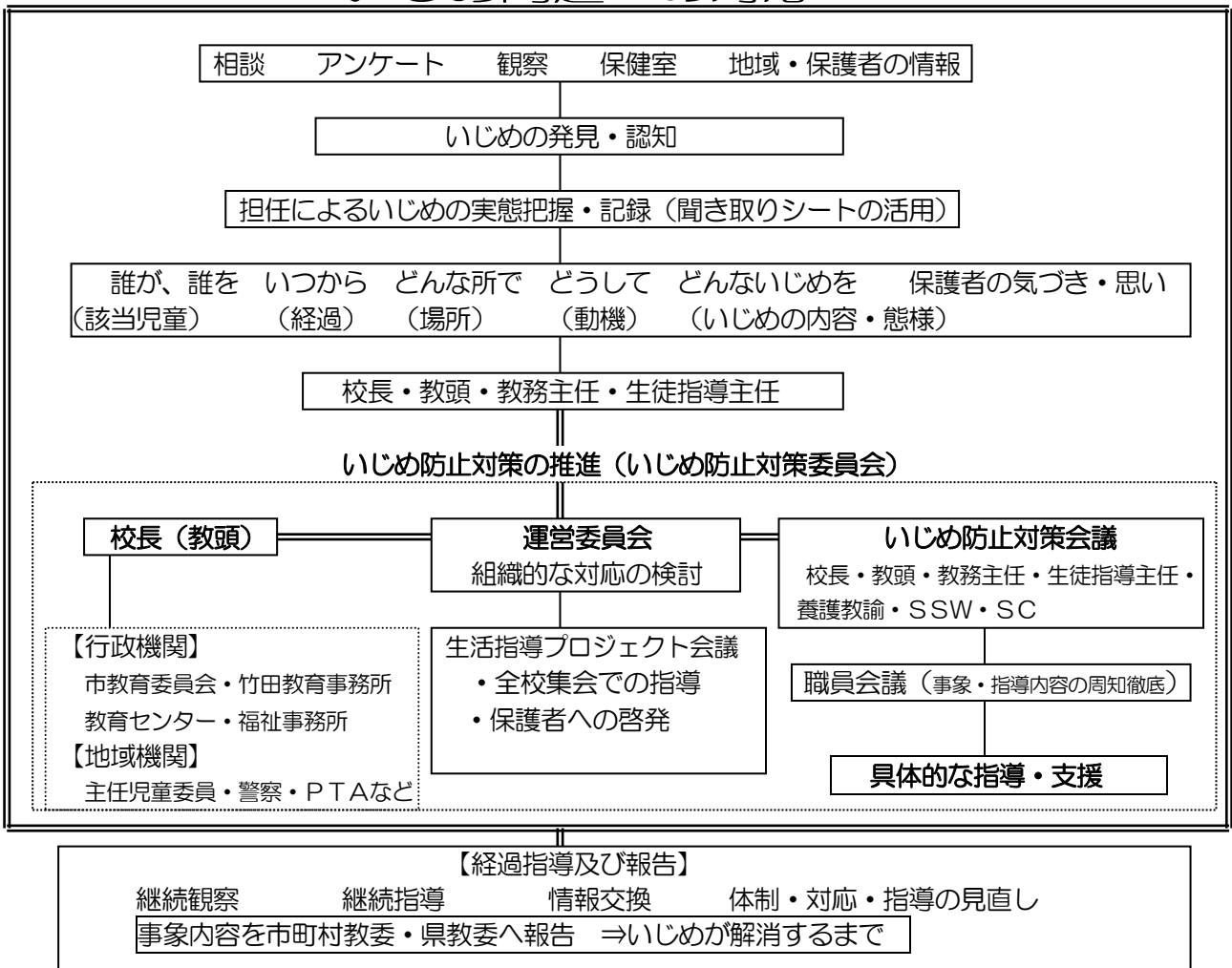


いじめ防止対策及び組織図



いじめ問題真への対応



具体的な指導・支援へ

報告・連絡・相談・記録を徹底しながら実施

	被害者への支援	加害者への指導	友人・知人（傍観者）への指導・支援
教師の対応	共感的に受けとめる姿勢で対応	毅然とした態度で対応	みんなを守るという姿勢で対応
伝えること	<ul style="list-style-type: none"> 学校として「何としても守る」という姿勢を示すこと プライバシーの保護に十分配慮すること 	<ul style="list-style-type: none"> いじめは決して許されない行為であること いじめられた側の心の痛みを配慮すること 自分の行為が重大な結果につながったこと 	<ul style="list-style-type: none"> いじめられた側の心の痛みを配慮すること いじめを認知した時、大人に通知する勇気を持つこと プライバシーの保護
確認すること	<ul style="list-style-type: none"> 身体の被害状況（負傷している場合、病院での診療状況） 金品の被害状況 警察への被害申告の意思 カウンセリングの必要性 	<ul style="list-style-type: none"> カウンセリングの必要性 	<ul style="list-style-type: none"> カウンセリングの必要性
留意すること	<ul style="list-style-type: none"> 再発や潜在化 ストレスやPTSD 	<ul style="list-style-type: none"> 加害者の心理的背景 加害者が被害者になること 	<ul style="list-style-type: none"> 観衆、傍観者も被害者になること



いじめの行為の背景に横たわる問題を見極め、解決の方法を考えて迅速に対応する